



公共交通の課題解決に向けた データ活用事例

2026年3月

MONET Technologies 株式会社





公共交通の課題解決に向けたデータ活用について

公共交通の課題解決に向けては

効果的な施策検討に繋げる **生きたデータ活用** が求められています

データ活用前

- ✕ 路線バスがあまり利用されていない
- ✕ 住民満足度調査の公共交通の満足度がいつも低い...
- ✕ 公共交通に課題があるとは感じているが何から手を付けてよいかわからない...

Before

データ活用後

- ✓ 住民の移動傾向がわかった
- ✓ 公共交通に対する住民の要望がわかった
- ✓ 施策の根拠・効果をデータで示すことができた

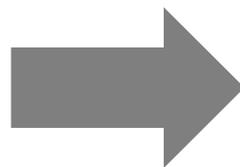
After



1. 多くの自治体様で抱える問題

現状

- 自家用車中心の生活形態で**公共交通があまり利用されていない。**
- 赤字運営が常態化しており、**自治体の負担額が大きい。**
- 高齢化が進んでいるが、自家用車がないと生活ができないため**免許返納率が低い。**



目標

- **自家用車がなくても生活できる**地域を作る。
より使いやすい公共交通環境を整える。
※メインターゲットは自分で運転ができない学生、免許返納予備軍、免許返納者
- 補助金負担額の面でも**持続可能な公共交通づくり。**
- 認知度を上げ、利用者を増やし、住民満足度調査で**公共交通の満足度を上げる。**

課題

公共交通を良く知らない



家から駅/バス停が遠い



- ✓ 適切な**周知の実施**
- ✓ **移動課題**の把握
- ✓ 適切な位置の**ステーション設計**
- ✓ **生活圏**の把握
- ✓ **移動需要のある時間**の把握



1. 多くの自治体様で抱える問題

現状

現状把握

施策検討

目標

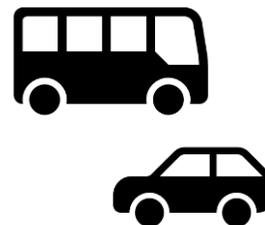
現状と目標との乖離がある原因を調査



- どんな移動課題を抱えているか
- 主に利用している移動手段は何か
- 公共交通の認知、利用状況
- 生活圏、移動傾向 など

アンケートや人流・車流データを用いた
データ分析

現状を踏まえて目標につながる施策を検討



- 路線バスの運行時間やルート、
ステーション位置の見直し
- マルチモーダルな交通システムの導入
- デマンドシステムの導入 など

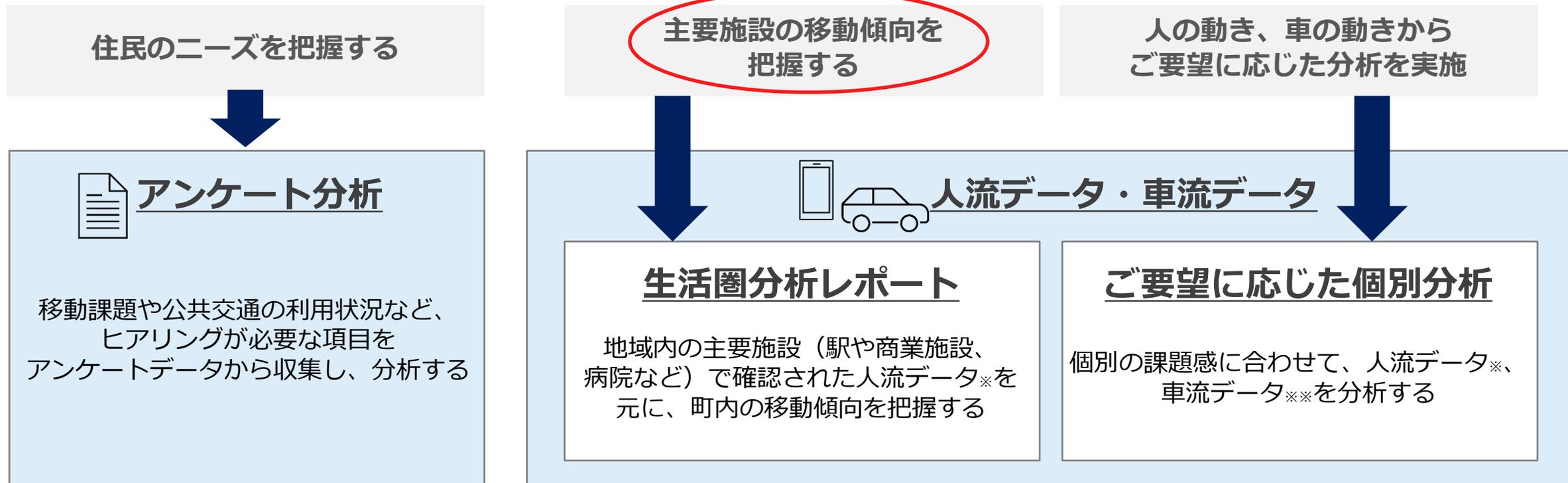
デマンド型交通AIシミュレーションや、
公共交通再編案の策定支援、
ステークホルダーを交えたワークショップ



2. STEP①_現状把握の手法

現状把握の手法として
「アンケート分析」と「人流・車流データ分析」を実施

トライアル内容（一部）





3. STEP②_施策検討

現状

現状把握

施策検討

目標

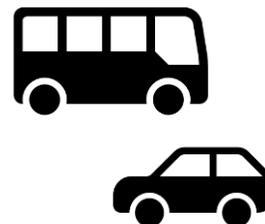
現状と目標との乖離がある原因を調査



- どんな移動課題を抱えているか
- 主に利用している移動手段は何か
- 公共交通の認知、利用状況
- 生活圏、移動傾向 など

アンケートや人流・車流データを用いた
データ分析のご提案

現状を踏まえて目標につながる施策を検討



- 路線バスの運行時間やルート、
ステーション位置の見直し
- マルチモーダルな交通システムの導入
- デマンドシステムの導入 など

デマンド型交通AIシミュレーションや、
公共交通再編案の策定支援、
ステークホルダーを交えたワークショップのご提案



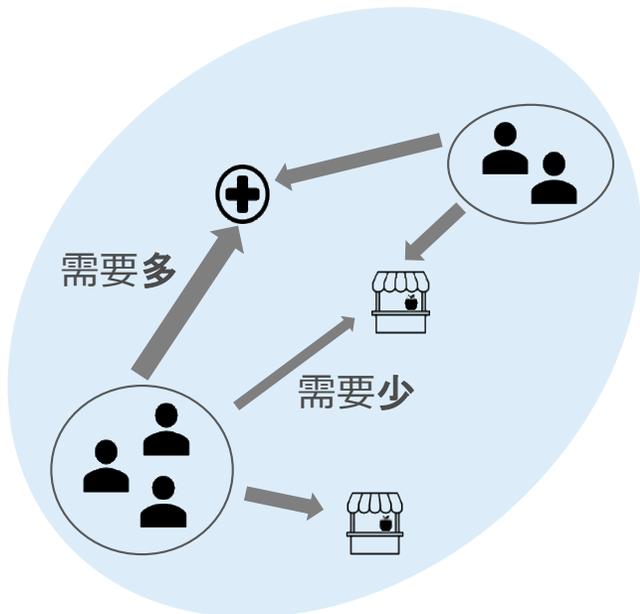
3-1. デマンド型交通AIシミュレーション

運行実績データとオープンデータ、ならびにお客様のご要望から、
デマンド型交通導入時の移動需要を予測して、AIシミュレーションを実行します

STEP 1

移動需要の予測

どこからどこに向けた移動需要が
どの程度あるのかを予測します



STEP 2

AIシミュレーションの実行

利用者数や車両稼働率などの指標を、
エリア分けや車両台数に応じて予測します

	1エリア		2エリア	
	全域	合算	北	南
	4台	6台	4台	2台
利用者数	102	115	112	48
便数	90	110	92	47
予約成立率	70.5	84.0	76.1	78.3
車両稼働率	89.0	75.0	91.0	86.4

※上記数値は全てイメージです

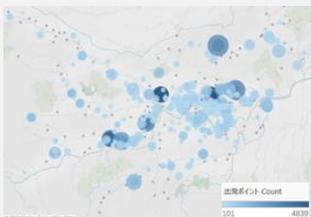


3-2. モビリティ人材育成、合意形成支援、収支シミュレーション

データという事実をベースにした事前分析と、それを元にした講義・ワークショップの実施によって **地域のモビリティサービスを実現する人材の育成** および **新たな地域交通施策を立案** を支援

現状の課題や住民ニーズの把握・可視化

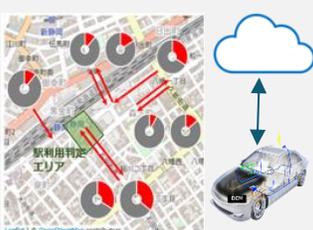
▼ 既存交通データ



▼ 人流データ分析



▼ 車流データ分析

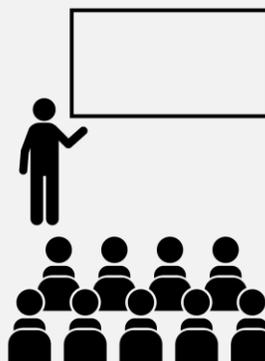


既存交通の利用実績に加え、生活に必要な施設への移動需要から人々の生活圏や町全体の道路の交通量や、急ブレーキの発生地点などの危険個所等を可視化・分析

➡ 各関係者が同じ目線を持つための客観的な指標として活用

人材の育成、新たな地域交通施策の立案

▼ 講義・セミナー



▼ ワークショップ



▼ ロードマップ策定

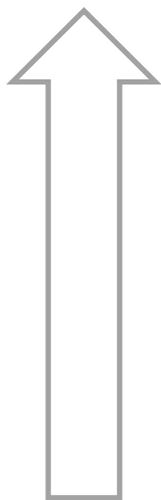


▼ 収支シミュレーション

経験に裏打ちされた実績のある手法で関係者間で相互理解・協働を進める。



➡ 関係者間の合意形成を経て施策の具現化に向けたロードマップを策定、収支シミュレーション実施



EOF

**まずはモデル地域への申請を
ご検討ください**

人流データの利活用にかかるモデル地域の募集

